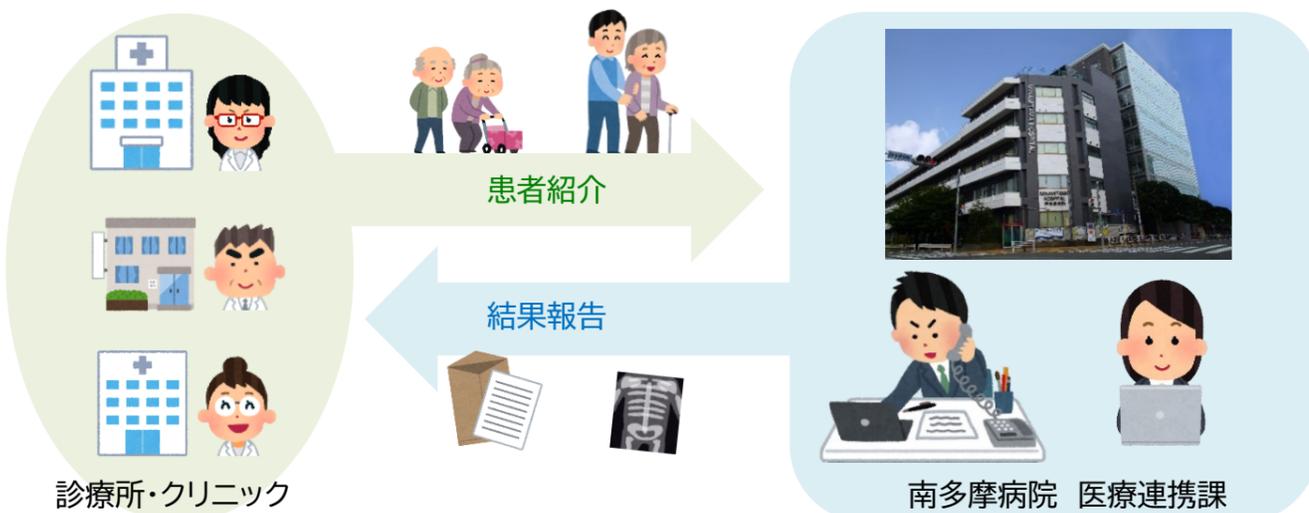




「医療連携」とは

事務部 医療連携課

南多摩病院には「医療連携課」という渉外を担当している部署があります。当院には通常を受診や入院、救急で来院される患者さんのほかに、診療所やクリニックの先生からの紹介で受診される患者さん・検査の予約をとられる患者さんがたくさんいらっしゃいます。紹介いただいた患者様が安心してかかりつけの診療所やクリニックに戻り継続して診療を受けていただけるよう、受診結果や検査結果の報告を行ない、情報共有をしています。そして、診療所やクリニックの先生よりお問い合わせをいただく場合や、報告が必要な場合の窓口となっており、急ぎでお届けした方がよい検査報告などは直接お伺いして手渡ししています。



当院の外来担当医情報や新しくできるようになった検査のご案内なども、定期的に診療所やクリニックへ伺い説明させていただいております。また、当院をかかりつけの患者さんが他院へ緊急入院された時などは、今まで行なった治療経過や検査結果等を提供し、その医療機関でも安心して治療が行なえるよう対応しております。

☎ 予約専用…042-663-0527
(平日8:30~17:00)

☎ 代 表…042-663-0111
(24時間365日対応)

外来受診は、初診であってもお電話にてご予約を承っております。また紹介状をお持ちでない場合や診察待ちの時間を少しでも短くしたい場合も、まずは予約専用ダイヤルにお問い合わせください。もちろん予約をされていない患者さんも診察させていただきます。※一部の診療科を除きます
土日祝日や夜間における受診希望に関しては、「救急外来」にて対応しております。症状でお困りの際は、いつでも当院にお問い合わせください。

かかりつけ医からの紹介で、はじめて南多摩病院に来院される患者さんは不安なことも多いかと思いますが、皆様に安心してお越しただけまずよう今後も活動してまいります。



紹介状持ってきたのに、すぐには手術してくれないの？

やまもと たかつく
外科 山本 隆嗣

はじめに

南多摩病院は、東京都の二次救急医療機関指定の救急や急性期疾患に対応した病院です。南多摩の外科もその様な患者さんに、すぐに診療を開始します。かかりつけの医師に「これはすぐに南多摩で手術してもらった方が良いね、紹介状書かね」と言われて来る患者さんもいます。しかし、外科外来の患者さん全てに、すぐに手術を行うわけでは無いのです。今回はその理由をお話したいと思います。

外科疾患の病態と隠された病気を調べる

南多摩病院外科には、予約・予約外・救急などで初診の患者さんが来られます。しかし、どの患者さんに対しても先ず初めは、患者さんの病気が何であるのか診断します(鑑別診断)。そして、その病気が判れば、どの程度進行しているのかを調べ(重症度・病期診断)、その患者さんがどの様な持病があるのか、それに対してどの様な治療がされているのか(紹介状・問診・お薬手帳のチェック)、現在の体力やどんな病気が隠されているのか(耐術能検査)も調べます。

外科外来で行われる検査は、採血、レントゲン、CT検査、MRI検査、心電図、呼吸機能検査、超音波検査(頸部、胸部、心臓、腹部、下肢)、肛門鏡、内視鏡検査、穿刺生検検査などです。このような検査を外科医はチョイスして予約や依頼をします。なかには全ての検査をする患者さんもいます(初診で、しかも症状のある患者さんはうんざりしますよね)。



外科部長
山本 隆嗣 医師



検査の結果で手術適応とタイミングを決定

このような検査や診断を行った後、外科医はなるべく早く、以下の3つを判断します。つまり、その患者さんは、

- ① 手術をした方がいいのか？ (手術適応)
- ② すぐに手術をしないと重篤化するのか？ (重症度・病期分類)
- ③ はたして、手術に耐えられるのか？ (耐術能)

です。



治療の時期や方法は様々

このような診断結果や検査結果を組み合わせ、患者さんにとって良い治療法を提案します。良い治療法とは治療効果に確実性があり、その治療で身体が危険にさらされる事が少ない治療法です。すぐに手術をするのが良い治療とも限りません。たとえば、

- 「血液がサラサラになる薬を飲んでいるので、手術の前にかかりつけの先生に問い合わせます。」
- 「手術をした方がいいでしょう。お元気なので、緊急手術しましょう。」
- 「手術より良い治療法があります。内科の先生に院内紹介します。」
- 「今の呼吸状態や心臓の状態では手術は危険です。代替え治療をした方がいいと思います。」
- 「糖尿病が酷いので、もう少し糖尿病を治療してから手術が安全だと思います。」
- 「手術しないと命が失われます。追加検査の猶予はありませんが、持病の為に術後危険な状態に陥る可能性は高いです。」
- 「新型コロナに感染しているのがわかりました。入院して感染症状が落ち着いたら手術しましょう。」

等、様々です。

緊急手術は危険がいっぱい

検査を省略した緊急手術は、患者さんの身体状況を把握しないまま行う手術ですので、手術中も手術後も合併症に晒される危険がいっぱいです。外科診療は緊急手術であっても、すぐには手術に辿り着かず、検査が多いのですが、それは診察や検査を適切に行って、患者さんの状態を見極めて、より良い治療を提供したいと外科医が思っているからです。宗長が詠った様に「急がば回れ」(※)とあって、すこし辛抱頂いて、お付き合いください。

※諸説ありますが江戸時代に発刊された咄本「醒睡笑」に室町時代の連歌師宗長の歌として「武士(もののふ)のやばせの舟は早くとも急がばまわれ瀬田の長橋」と言う和歌が紹介されています。東海道五十三次の草津宿から大津宿へは、琵琶湖沿岸の矢走(矢橋)の渡しから船で湖上を行くのが速くて便利であるが、突風「比良(比叡)おろし」などで転覆のおそれもあるため、遠くても陸路を歩き、瀬田(勢多)の長橋(唐橋)を渡って行ったほうが安全でよい。と詠んだようです。

診察に使う3D画像について

医療技術部 放射線科

今回は診察補助画像として提供している3D画像について紹介します。当院では画像処理専用の装置(Ziosoft社製 Ziostation2、GE社製 AdvantageWorkstation)を用いて、主にCT検査で撮影された画像データから3D画像を作成しています。

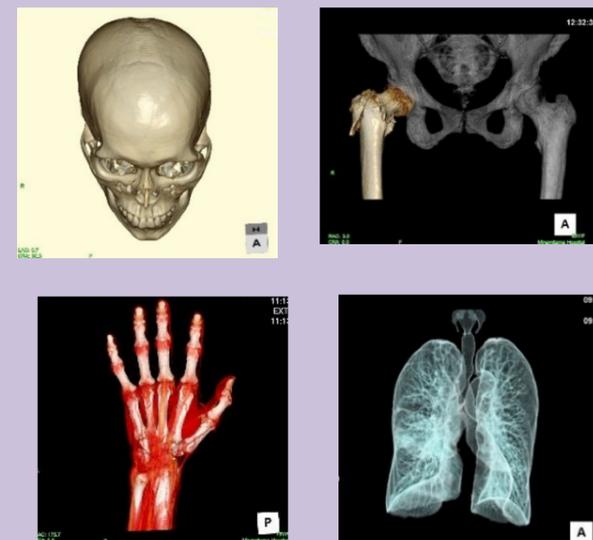


3D画像を作成する事で様々な角度から立体的に目的部位を観察する事が出来ます。また、診断に必要な情報が得られるように特定の部位だけを表示する事も可能です。作成した画像は手術支援や患者さんへの検査結果の説明等に用いられています。作製時間はおおよそ30分~1時間半程度になります。最近ではコンピュータ技術の進歩により、以前と比べてある程度自動で画像処理を行えるようになってきましたが、細い血管や小さな骨折の描出、診断に不要な臓器や筋組織等を取り除く作業は手作業となる為、いかに目的に応じた画像処理をできるかが作成者の腕の見せ所となります。

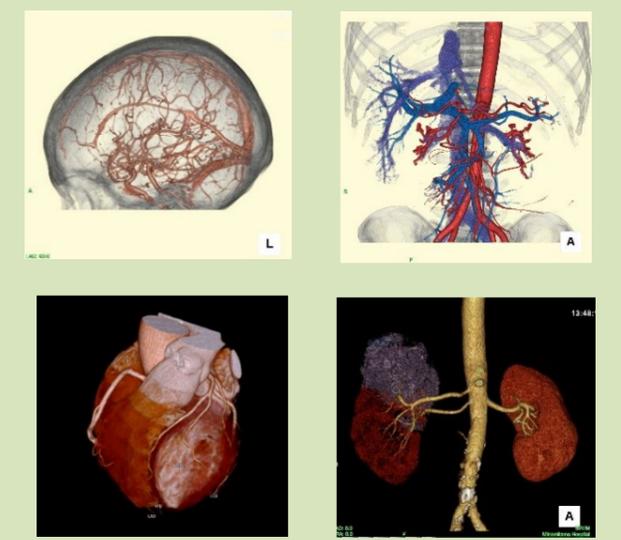


骨や血管だけでなく、靭帯や気管、腸管等の臓器の3D画像も各々に適した画像処理をする事により作成する事ができます。造影剤を使用する事で、細かな血管なども詳細に表示することが出来ます。

【造影剤未使用】



【造影剤使用】



この他にも様々な3D画像を作成しています。今後も患者さんの診断に役立つ画像作成に努めていきます。